

令和元年12月20日

令和元年度今帰仁村議会クルーズ船受け入れ視察研修報告書

今帰仁村議会議員 座間味 邦昭



先に実施した今帰仁村議会視察研修の結果を、下記のとおり報告します。

記

1. 日 時 令和元年9月23日（月）～26日（木）3泊4日

2. 視察研修先 石垣市・台湾

3. 目 的

令和3年(2021年)本部町へのクルーズ船寄港開始に鑑み、県内先進地及び海外の事情を把握し、課題解決への取り組みと地域振興のあり方について調査し政策形成に反映させる。

4. 研修内容

石垣市におけるクルーズ船寄港促進のための港湾機能、クルーズ寄港拠点としてのサービス機能の強化、観光レクリエーション機能の拡充に向けた石垣市官民の取り組み、クルーズ船寄港による経済波及効果、クルーズ客の動向や課題を調査する。また、今後の国際クルーズ拠点形成としての在り方を台湾現地旅行社を通して調査を行う。

5. 研修報告

国土交通省の官民連携による国際クルーズ拠点に選定された本部港。この事業ではクルーズバースの設置を国の予算で整備し、連携協定を結んだ民間船社によってターミナルビルやC I Q施設を整備し、年間 150 日の優先寄港権を与えるもので、民間船社の選定は沖縄県が行い、本部港には「ゲンティン香港社」が決まっている。同社は沖縄県に対し税関や検疫などの通関をスムーズに行われるよう求めており、そこでの合意は厳しいものがあつたと推測されたが見通しは立ってきているようだ。C I Q施設についても同社が整備していくのでスムーズな通関ができるような施設が整備されることを期待したい。しかしながら密輸や様々な伝染病などが持ち込まれてしまう懸念もあることから、税関、検疫の質の確保は絶対的に必要である。

名護市や本部町・伊江村と競うのではなく、今帰仁村にしかない素材に費用をかけずに売り込んでいくことが重要である。大型のショッピングモールはないが、北部唯一の世界遺産今帰仁城跡や手つかずの自然、天然のビーチがある。また、今帰仁アグーや豊富な農水産物など今帰仁村の魅力を積極的に発信し、長い時間今帰仁村に滞在してもらえるかを我々議会や行政、商工会、観光協会は一丸となって考えていかなければならない。

二次交通の受け入れ態勢整備も必要不可欠である。クルーズ船寄港と修学旅行シーズンが重なると観光バスやタクシー、レンタカーが足りなくなるオーバーツーリズムに陥ってしまうことが懸念される。これだけは絶対に避けなければならない。行政と運輸会社、関係機関が協力して態勢を整える必要がある。

いずれにせよ今帰仁村が単独で進めることは不可能である。合同研修を行った本部町や伊江村、そして名護市といった広域での連携を強化し、3町村もしくは4市町村で組織する連絡協議会を早急に立ち上げ、住民への周知を含めたあらゆる情報の共有、二次交通問題、ツアープログラムの設定、多言語表記の整備、トイレやごみ問題、白タク行為の防止などといったさまざまな課題解決に向けて取り組んでいかなければならない。

今帰仁村議会としても行政をバックアップし、観光協会や商工会、村民との懸け橋となり、来る 2021 年本部港へのクルーズ船寄港に向けて万全の態勢で臨みたい。